

社会資本総合整備計画(第4回変更)

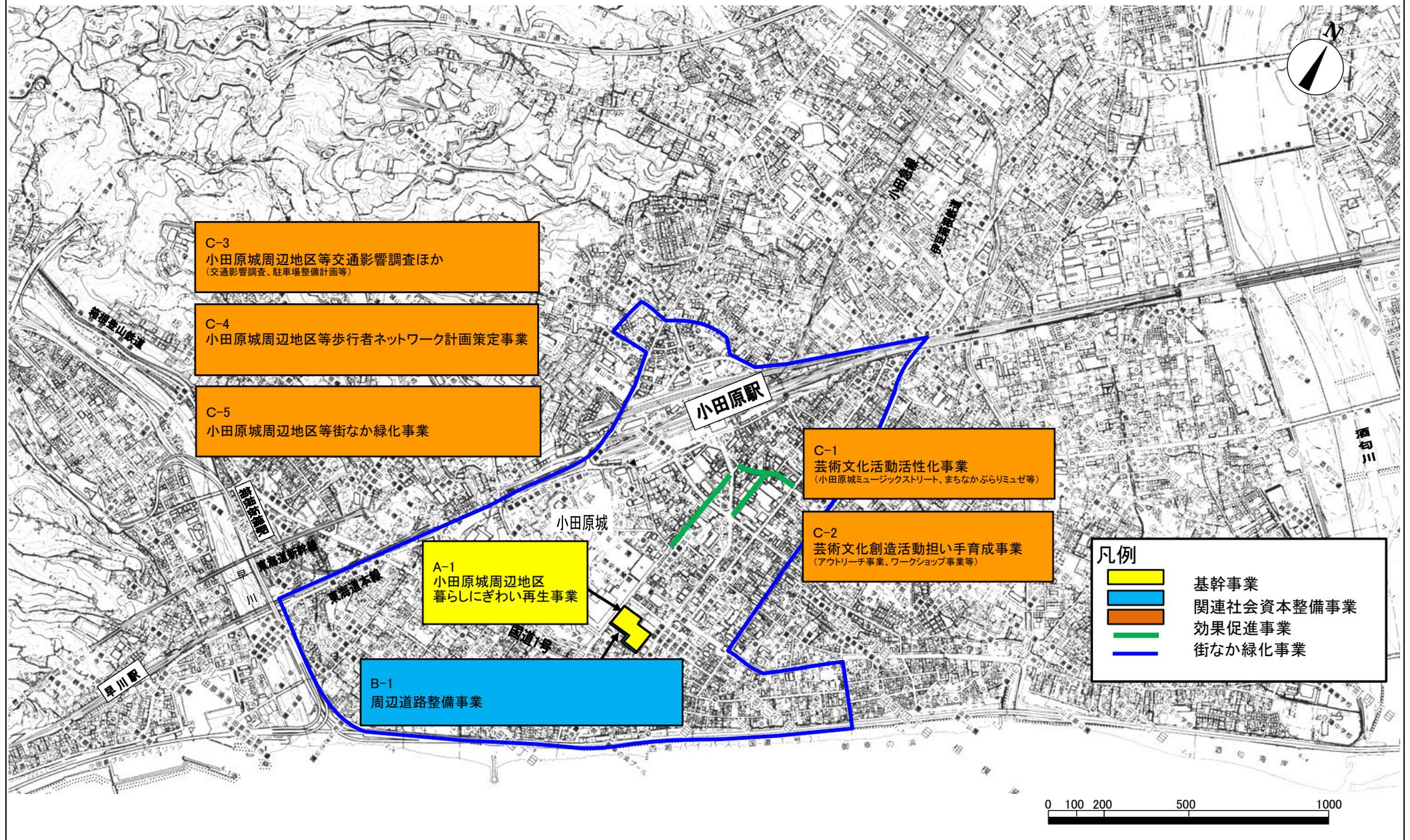
平成28年3月28日

かながわけん おだわらし
神奈川県 小田原市

C-4	施設整備	一般	小田原市	直/間	小田原市 民間（商店街）	小田原城周辺地区等歩行者ネットワーク計画策定	基幹事業実施周辺において歩行者ネットワーク計画を策定し、路線ごとの整備方針を定め、回遊性、利便性を高めた街なかネットワークを構築する。	小田原市									34		
C-5	施設整備	一般	小田原市	直/間	小田原市 民間（商店街）	小田原城周辺地区等街なか緑化事業	基幹事業実施周辺地域において、ワークショップを行い、地域で計画し、まちなかの緑化整備を行う。	小田原市										38	
合計																	92		
番号	一体的に実施することにより期待される効果																	備考	
C-1	基幹事業実施周辺地域において、音楽、ダンスパフォーマンスのイベントや、絵画、彫塑の展示発表などを随時開催し、芸術文化でまちをつなぐことにより、活気と回遊性を生み出すとともに、芸術文化創造センターが鑑賞活動の場としてだけでなく、多くの人が関わりながら創り上げていく芸術文化の拠点となり、絶えず芸術文化創造センター周辺地域に人があふれ、街なかのにぎわいが生まれる。																		
C-2	基幹事業実施周辺地域を拠点とした、アウトリーチ、ワークショップ・セミナー等を開催し、小田原の芸術文化創造活動の担い手を効果的に育成することで、クリエイティブな新しい活力がわきあがり、多くの担い手が、芸術文化創造センターを拠点として活動するとともに、地域内を回遊することで、新しいにぎわいが生まれる。																		
C-3	基幹事業実施周辺における交通影響調査を実施し、既存駐車場や駐輪場の利用実態を把握した上で、駐車施設に必要な機能や運営方法の検討を行うとともに、交通円滑化と利便性向上のために有効な誘導システムの導入を検討し整備することで、基幹事業実施周辺において空き駐車場を探す迷走交通による環境悪化や渋滞等による地域イメージダウンが抑制される。																		
C-4	歩行者交通の発生起点である小田原駅や、C-4で利用実態を把握する既存駐車場や駐輪場等から、基幹事業実施周辺への経路において歩行者ネットワーク計画を策定し、路線ごとの整備方針を定めて歩行空間の創出を図ることにより、回遊性、利便性を高めた魅力的な街なかネットワークが構築され、歩きやすい街なかとしてにぎわいの向上につながる。																		
C-5	基幹事業実施周辺において、地域の意見を反映し、地域と連携して道路（筋）を連続的に緑化することにより、施設に至るまでの高揚感を高め、芸術文化創造センターへの集客の拡大を図るとともに、まちなかのにぎわいの創出や回遊性の向上にも寄与する。																		

(参考図面) 市街地整備

計画の名称	小田原の多様な芸術文化活動を生かした、まちのにぎわいと回遊性の向上	
計画の期間	平成24年度 ～ 平成31年度 (8年間)	交付対象 小田原市



交付金の執行状況

(単位:百万円)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
配分額 (a)	21	108	72	173	6	10		
計画別流用 増△減額 (b)				△ 148				
交付額 (c=a+b)	21	108	72	24	6	10		
前年度からの繰越額 (d)			59	48				
支払済額 (e)	21	49	83	73	6	10		
翌年度繰越額 (f)		59	48					
うち未契約繰越額 (g)								
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	0	0	0	0		
未契約繰越＋不用率 (h = (g+h)/(c+d))	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
未契約繰越＋不用率が10%を超えている場合その理由								

※ 各年度の決算額を記載。

社会資本整備総合交付金チェックシート

計画の名称: 小田原の多様な芸術文化活動を生かした、まちのにぎわいと回遊性の向上

事業主体名: 小田原市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①上位計画等との適合等	
1) 時代環境を踏まえたものとなっている。	○
2) 交付金制度の趣旨に適合している。	○
3) 上位計画や従前の計画等と整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応	
1) 地域の課題や特性を踏まえて計画の目標が設定されている。	○
2) 目標は、達成の必要性が高いものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
4) 関連事業を効果的に組み合わせている。	○
④事業の効果	
1) 十分な事業効果が確認されている。	○
2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1) まちづくりに向けた機運がある。	○
2) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2) 住民・民間事業者等の協力姿勢がある。	○
3) 計画期間中は適切に進行管理を実施し、必要な見直しを行う予定である。	○